

＜ 6月16日～30日の国内外外国為替市場動向 ＞

	為替市況	主要経済指標など	主要発言など	為替レート		
				ドル円	ユーロ円	24H
08/06/16 (月)	東京は日経平均が380円も上昇したことで円が買えない。しかし米金融機関のにらみでドルも買いにくく欧米は発表された米経済指標が買えずドル売りスタート。しかし米株の底堅さもあり大幅安には繋がらず。	・ベルギーのビール大手インベプが米アソシエーツ・ブッシュに買収提案 ・4月の米対米証券投資1151億ドルの買い越し、6月のNY連銀景況指数▲8.7、同NAHB住宅市場指数18	・6月の月例経済報告で基調判断を3ヶ月ぶり下方修正 ・津田財務次官「引き続き為替市場の動向を注視していく」 ・リッチモンド連銀総裁「米インフレは容認出来ない水準だが安定」	108.28 108.59 107.92 108.22	166.58 167.69 166.46 167.50	寄付 安値 高値 終値
08/06/17 (火)	東京は主要欧米紙が相次ぎ米利上げに否定的な見解が示されたことでドル売り優勢。再び107円台へ。欧米は発表されたGSの決算が予想よりも良好だったことでドル反発。ただ米指標は買えず、上昇の足枷に。	・6月の独ZEW景況指数▲52.4 ・5月の米住宅着工97.5万戸、同住宅建設許可96.9万戸、同PPIは1.4%、同鉱工業生産▲0.2%、同設備稼働率79.4、第1四半期経常収支▲1764億ドル	・FT紙「FRBは利上げ時期に関して見解分かれる」(WPやWSJでも同様の記事を掲載) ・スミスECB専務理事「18-24ヶ月以内にインフレ率を目標の2%以下にするには0.25%の利上げで十分」	108.22 108.40 107.61 107.92	167.37 167.84 167.08 167.39	寄付 安値 高値 終値
08/06/18 (水)	東京はユーロ主導の相場展開。シュタルク発言を受けて対ドル、円でユーロは強含みの推移となった。欧米は調整的な動きから再びドルの買い戻し強まる。しかし原油価格の上昇を受け、その後軟落へ。	・4月日銀会合要旨「政策判断は景気、物価両方に注意を払う必要」 ・6月BOE議事録「政策金利の据え置きは8対1」	・オバマ上院議員「ドルは米経済の根本的な問題の兆候」 ・シュタルクECB専務理事「物価安定維持のために必要なことはすべて行」 ・ネイトハリス「22日のジッタ会議で原油増産声明は予想しない」	107.91 108.44 107.72 107.88	167.45 168.05 167.05 167.59	寄付 安値 高値 終値
08/06/19 (木)	東京は総じて小動き。ただと東京や上海などアジア株式が下落したこともあり、やや円買い優勢ムード。欧米はNY原油の動向に一喜一憂。またシティアの発表もあり全体的にドルは買いにくい雰囲気。	・4月の全産業活動指数0.8% ・スイスが政策金利を据え置き ・中国がガソリン・ディーゼル価格、ジェット燃料などを引き上げ ・5月の米景気先行指数0.1%、6月のFF連銀指数▲17.1	・ナイジェリアの武装勢力の攻勢でシェールオイルが生産停止へ、その後オイルタンカーの攻撃も示唆 ・スイス中銀総裁「9月利上げの可能性は除外出来ない」 ・シティアが第2四半期の追加損失示唆	107.81 108.07 107.42 108.02	167.60 167.79 166.79 167.48	寄付 安値 高値 終値
08/06/20 (金)	東京はモラインの格下げに加え、株価が200円近い下げを記録したことを嫌気し、悪い円高進行。欧米は地政学リスクの高まりに加え、金融機関の損失拡大観測からドル売り優勢。107円前半も。	・ムーディーズがMBIAとアムハックの財務格付けを格下げ ・メキシコが0.25%の政策金利引き上げ ・米政府高官がイスラエルの軍事演習はイラク核開発施設の攻撃想定の可能性	・ルクセンブルグ首相「EU首脳会議では為替介入について協議せず」 ・リブスキーIMF筆頭副専務理事「ドルは中期的ファンダメンタルズに向けた下落」	108.02 108.02 107.12 107.33	167.42 168.13 167.26 167.52	寄付 安値 高値 終値
08/06/23 (月)	東京は基本インジ内だがそのなかで荒い値動き。材料となったのは株価と原油価格。それに一喜一憂した。欧米は2人のIFO関係者による弱気コメントを嫌気したユーロ売り優勢。原油続伸にもかかわらずドルしっか。	・シッタ会議でサウジの増産が決定 ・第2四半期法人企業統計の大企業製造業DIは▲15.1 ・6月の独IFO景気動向指数101.3	・IFOのネルフ氏「ECBは利上げは見合わせるべき」 ・IFOのツッベルガー氏「ユーロ圏に大幅な利上げ余地はない」 ・OPEC議長「原油の追加供給要求なく増産は出来ない」	107.34 108.08 107.16 107.85	167.49 167.75 166.87 167.36	寄付 安値 高値 終値
08/06/24 (火)	東京は26日まで予定されている米債の入札に対する期待などからドル買い優勢。108円台を回復した。欧米は発表される米経済指標がこぞって買えずドル売り要因に。しかし米株が底堅く、ドル下支えに寄与。	・イラン核施設が攻撃された、との噂 ・4月の米SP/ケースシャワー住宅価格指数▲15.3%、6月の消費者信頼感指数50.4、同リッチモンド連銀指数▲12、4月のOFHEO住宅価格指数▲0.8%	・独経済技術省次官「第2四半期の独GDPはゼロなら良い結果」 ・欧州委員会「ユーロはファンダメンタルズ以上に上昇していると懸念」 ・サウジ中銀総裁「湾岸諸国の通貨統	107.88 108.24 107.36 107.82	167.46 168.38 167.42 167.85	寄付 安値 高値 終値
08/06/25 (水)	東京は基本揉み合い。107円台後半を中心としたレンジとなった。FOMCをにらみ売買手控えムード。欧米はFOMCの結果をにらみ思惑交錯し、動意は二転三転。ただ最終的にはややハ派との見方有力か。	・5月の貿易収支3656億円 ・5月の米耐久材受注0.0%、同新規住宅販売51.2万戸 ・FOMCで金利据え置き決定、声明は「成長に下方リスクは存続するもののやや縮小」	・仏中銀総裁「為替相場には協調行動が必要」 ・ECB総裁「米国の強いドルが利益にかなうと述べていること重要」 ・イラン外務次官「EUから資産を引き上げる」	107.82 108.42 107.66 107.82	167.92 169.16 167.62 168.92	寄付 安値 高値 終値
08/06/26 (木)	東京は月末外貨需給からドル買い先行。しかし米銀損失計上などもあり、途中からドルは上げ渋った。欧米はドルは急落。東京終盤の流れに加え、米自動車会社破綻の噂などがドルの下落に拍車掛ける。	・第1四半期の米GDP確報1.0%、同個人消費確報1.1%、同コアPCE2.3%、5月の中古住宅販売件数499万戸 ・米大手自動車破綻申請の噂 ・米国の北朝鮮のテロ支援国家指定を45日以内に解除へ	・GS「第2四半期にシティアは90億ドル、メルは42億ドルの追加損失計上見込み」、またGMの投資判断引き下げ ・OPEC議長「原油価格は今夏170ドルに達する可能性がある」	107.85 108.19 106.61 106.82	168.95 169.47 168.01 168.32	寄付 安値 高値 終値
08/06/27 (金)	東京は前日同様外貨建て投信の設定がドルの下支え。しかしNY原油が時間外で上昇しドルの上値を抑制。欧米は発表された米経済指標はそれほど悪くなかったものの、ドルは買えない。米株安が嫌気されていた。	・5月の消費者物価1.3%、同完全失業率4.0% ・第1四半期の英GDP確定値0.3% ・5月の米個人所得1.9%、同コアPCEデフレーター-0.1%、6月ミシガン大消費者信頼感指数56.4	・露中銀第1副首相「外準に占めるスイスフランの比率引き上げへ」 ・米上院「デューク候補をFRB理事へ承認」 ・ムーディーズ「モルスタを格下げ方向で見直し」	106.84 107.22 105.85 106.15	168.39 168.58 167.03 167.65	寄付 安値 高値 終値
08/06/30 (月)	東京は月末仲値不足などがドル買いを支援。しかし日本国債格上げもあり、徐々に円買い優勢に。欧米は原油高もあり円続伸一時105円割れも。しかし中国首相発言を受けて流れが一変した。	・ムーディーズが日本国債の格付けを引き上げ ・6月シカゴPMIは49.6 ・IMF第1四半期外準報告書「ドルの割合は64%から63%、ユーロは26.4%から26.8%、円は2.9%から3.1%」	・イラン革命防衛軍司令官「攻撃を受けた場合、ペルシヤ湾とホルムズ海峡の規制も」(28日) ・中国首相「米国にドル安定のための措置をとるよう要請」	106.29 106.47 104.99 106.21	167.85 168.13 166.08 167.32	寄付 安値 高値 終値

*製作・著作「FXニュースレター」

URL: <http://www.fx-newsletter.com/>